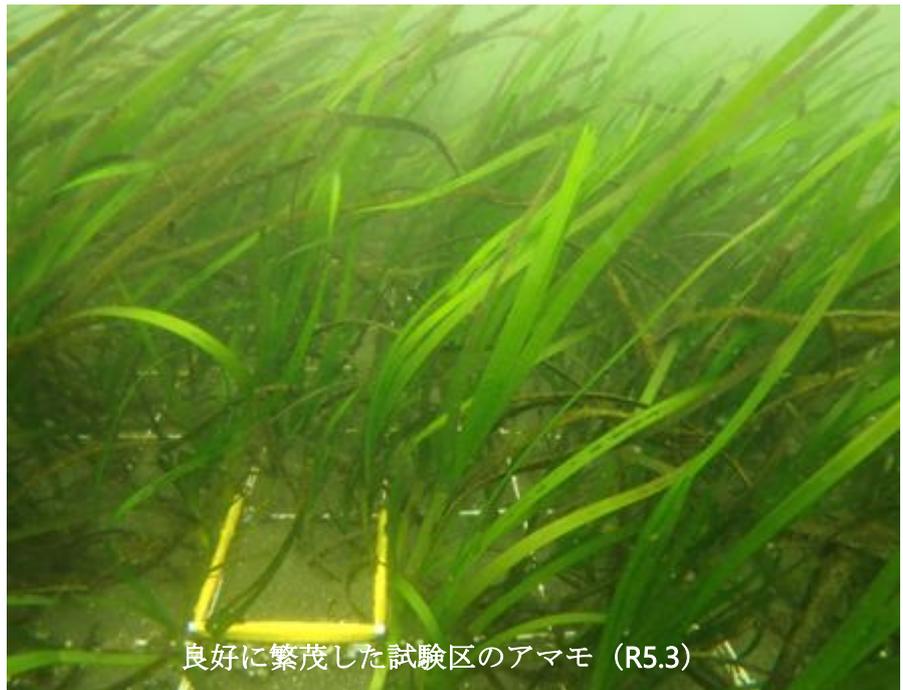


羽田沖浅場で自生アマモを確認

海草の「アマモ」は水域の生態系を多様化する「海のゆりかご」として、また最近では、二酸化炭素を削減できる「ブルーカーボン」の蓄積者としても脚光を浴びています。当協会では平成18年から、羽田沖浅場でアマモ藻場造成移植試験に取り組んできました。アマモの生育にはあまり良い環境とは言えない羽田沖浅場では、様々な阻害要因がありますが、試行錯誤を重ねた結果、令和3年から生残・成長ともに良好となり、種子も多く形成されるようになりました。本年、7月3日の潜水調査で試験区からおおよそ1キロ離れた水域で10～30cm四方ほどのアマモが13か所ほど確認されました。潜水士の話では、精査すればさらに多くのアマモが自生しているのではないかとのことでした。これは、移植方法の改善により形成された多くの熟成種子に由来した自然発生のアマモではないかと考えております。

これまでの調査では、高水温となる6月下旬から7月には移植したアマモは枯死していましたが、今年度はまだ生残しており、今後さらに調査するつもりです。ちなみに、今年度の試験区に移植したアマモも昨年度同様良好に生育しており、次年度も自生アマモの繁茂が期待されます。



自生アマモ①～④ (R5.7.3)